

2025 大阪・関西万博を契機とした地方公共団体による
地域活性化に資する中東地域との国際交流調査

調査報告書

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

令和7年3月

NTT DATA

株式会社 NTTデータ 経営研究所

目次

第1章. 調査概要	1
1. 調査の背景・目的	1
2. 実施内容	2
第2章. 調査対象プロジェクトの実施結果	3
1. 調査対象プロジェクトの概要	3
2. 事業の成果概要	5
3. 他自治体への普及・展開方策	7
(1) 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価	7
(2) 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制	8
(3) 万博閉会後の事業継続性（相手国との関係性の評価）	9
第3章. 成果のとりまとめ	11
1. 関西ウォーカーへの記事掲載	11
(1) 実施概要	11
(2) 各自治体の掲載記事	11
(3) 掲載結果	13
2. 各調査対象プロジェクト	14
A. 青森県三戸町	14
(1) 背景と目的	14
(2) 事業内容	14
(3) 実施に至った経緯	16
(4) 実施スケジュール	16
(5) 実施体制	17
(6) プロジェクトの目標に対する成果	17
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	18
(8) 特に良かった点、苦労した点	18
(9) 今後の課題	19
(10) 今後の展開内容	19
(11) 持続的に展開するための工夫	19
B. 東京都渋谷区	20
(1) 背景と目的	20
(2) 事業内容	20
(3) 実施に至った経緯	23
(4) 実施スケジュール	24
(5) 実施体制	24
(6) プロジェクトの目標に対する成果	24

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	25
(8) 特に良かった点、苦労した点	25
(9) 今後の課題.....	26
(10) 今後の展開内容	26
(11) 持続的に展開するための工夫.....	26
C.和歌山県有田市	27
(1) 背景と目的	27
(2) 事業内容.....	27
(3) 実施に至った経緯.....	39
(4) 実施スケジュール	40
(5) 実施体制.....	41
(6) プロジェクトの目標に対する成果	42
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	42
(8) 特に良かった点、苦労した点	43
(9) 今後の課題.....	43
(10) 今後の展開内容	44
(11) 持続的に展開するための工夫.....	44
D.徳島県上板町.....	45
(1) 背景と目的	45
(2) 事業内容.....	45
(3) 実施に至った経緯.....	51
(4) 実施スケジュール	51
(5) 実施体制.....	52
(6) プロジェクトの目標に対する成果	52
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	52
(8) 特に良かった点、苦労した点	52
(9) 今後の課題.....	53
(10) 今後の展開内容	53
(11) 持続的に展開するための工夫.....	54
E.福岡県福岡市	55
(1) 背景と目的	55
(2) 事業内容.....	55
(3) 実施に至った経緯.....	57
(4) 実施スケジュール	58
(5) 実施体制.....	58
(6) プロジェクトの目標に対する成果	58

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	58
(8) 特に良かった点、苦労した点	58
(9) 今後の課題.....	59
(10) 今後の展開内容	59
(11) 持続的に展開するための工夫.....	59
3. 各調査対象プロジェクトのアンケート結果	60

第1章. 調査概要

1. 調査の背景・目的

2025年国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）は、20年ぶりに我が国で開催される国際博覧会である。諸外国の関心も高く、現時点で158の国・地域の参加表明が得られている。国際博覧会は、かつては、各国の産品や最新の科学技術の展示を目的とするものであったが、近年は、人類共通の社会的課題解決を目的とするものになり、各国の団体や人々が相互に意見交換を行う機会の創出等の参加型のイベントも開かれるようになった。自治体や地域住民にとっても、大阪・関西万博に参加し、各国と交流することを通じて、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などが期待できると考えられる。大阪・関西万博の機会を活用した国際交流事業の在り方については、国及び自治体における知見の蓄積が十分ではないため、令和5年度に地域活性化に資する国際交流の取組みに係る調査を、自治体を公募して実施した。

しかし、申込のあった自治体の相手国は欧米やアジア地域が大部分であったため、万博を契機として①中東地域②アフリカ地域③大洋州島嶼国地域④中南米地域と自治体の交流を促進する仕組みを調査する必要性が明らかになった。

本事業においては、①との国際交流の取組事例を調査・分析し、地域活性化に資する国際交流施策の係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図る。

2. 実施内容

本調査は、内閣官房国際博覧会推進本部事務局（以下「主管事務局」という。）と連携しながら、2025年の万博開催期間や事前交流における国際交流事業の実施に向けて、前述の目的の趣旨に合致すると思われる取組を行う調査対象自治体に対する調査を実施する。具体的な実施内容は、以下の通りである。

調査実施内容

No	調査実施項目	調査実施内容
1	調査対象自治体と相手国との交流マッチング支援	・ 主管事務局が選定した自治体のうち交流相手国が決まっていない自治体に対して、交流相手国のマッチング支援を行う。
2	調査対象プロジェクトの計画策定	・ 調査対象自治体、コーディネーター及び交流相手国と協議し、万博国際交流の企画案の作成を行い、当該年度から大阪・関西万博に向けた交流計画書を取りまとめる。
3	調査対象自治体の取組への伴走業務	・ 策定した計画に基づく交流事業に対して支援を行うこと。具体的には、自治体が取り組む事業の準備・実施・取りまとめにあたり、調査対象自治体に対し、打ち合わせ、アドバイス、関係団体への取り次ぎ、進捗管理またはヒアリング等を実施する。

第2章. 調査対象プロジェクトの実施結果

1. 調査対象プロジェクトの概要

自治体と共にコーディネーターにより企画された子どもを中心とする国際交流の取組事例を調査・分析し、地域の活性化に資する国際交流施策の係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図った。各自治体における調査対象プロジェクトの実施概要を以下に示す。

調査対象プロジェクトの実施概要

No	自治体名	実施概要
A	青森県三戸町	三戸町は、長年、オーストラリア連邦タムワース市と国際交流を行ってきたが、他地域との国際交流の機運が高まり、万博国際交流プログラムを契機に、ヨルダン・ハシミテ王国（以下、ヨルダン国と表記）との交流を開始した。今年度は、ヨルダン国の治安状況や国際交流実施の方向性についての情報収集を行うために、ヨルダン国訪問や在日ヨルダン大使館を訪問し、意見交換を行った。
B	東京都渋谷区	トルコ共和国と渋谷区の交流事業を通して双方の連携を進め、渋谷区民への国際教育の機会を広げることを目的として各種イベントを行った。具体的には、「トルコ料理教室」や伝統音楽を元にした「音楽講座」、「写真講座」を行った。また分野横断的に来場者がトルコ文化を五感で体験できるよう、トルコ音楽コンサート、トルコ写真家の写真展、トルコ料理教室、トルコ語講座、を同日に施設内複数会場で実施した。これらのイベントを通じトルコの文化を多角的に紹介し、幅広い交流を行った。
C	和歌山県有田市	有和中学校生徒ドバイ交流現地派遣プログラムにて中学2年生20名が渡航し、ドバイ現地校（GNS校）生徒と2日間にわたり共同のカリキュラムを実施した。 カリキュラムは、EXPO2025テーマでもある環境、持続可能な社会、グリーンエネルギーとしており、相互に学習を行ってきた内容を紹介するとともに同じ授業を受け交流をはかった。中東文化の体験に加え、廃棄物処理場など他国の環境への取り組み、前回のドバイ万博の跡地などを訪れた。 上記交流にあたり、オンライン交流、環境学習等有田市及び現地企業、関係者と共に準備、成果報告もおこなった。

No	自治体名	実施概要
D	徳島県上板町	上板町内の子どもたち（高志小学校 5 年生）とヨルダンの子どもたちのオンライン交流により、互いの国のことや、文化・歴史・食などの紹介を行い、子どもたち同士の交流を深めた。また、万博ヨルダン館関係者とも交流し、藍染め文化の発信を行った。
E	福岡県福岡市	中東のインバウンドを西のゴールデンルート参加自治体に誘客するために中東の旅行代理店関係者とした FAM トリップ、サウジアラビア大使の招聘を行った。また、受け入れの準備としてハラル勉強会を事前に実施することで、受け入れ態勢の構築を行った。

2. 事業の成果概要

事業の成果概要として、実施結果に対する評価に係る項目について分析結果を記載する。各自治体の成果に関する詳細は第3章 2.各調査対象プロジェクトにまとめている。

事業の成果概要

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
青森県三戸町	・ヨルダン国を訪問したことで、中東地域を対象とした新たな国際交流の機運が高まった。	・ヨルダン国との国際交流実施について、現実的に実施していく可能性が高まった。	・三戸町という新たな交流先としての興味関心が高まり、三戸町訪問への意思表示をいただいた。	・毎年ヨルダン国で開催される「日本祭り」に三戸町が出展できるような展開を実現したい。
東京都渋谷区	・バリエーション豊富なイベントの実施を通じ、区民が改めて「渋谷区」と「トルコ」のつながりやトルコ文化への関心を深める機会を得た。	・人々にとって身近な音楽や語学、また生活に密接した料理文化を小さな子供から高齢者まで幅広い層に体験いただけた。これによりトルコ、日本の双方で国際理解が進んだ。	・日本に対する興味・関心が高まったことで、万博会期中のみならず、渋谷区とトルコにおいて今後の長期的な関係構築が期待される。	・トルコ政府機関である、ユヌス・エムレ・インSTITUTE東京との連携が深まった。その結果、料理教室が継続の打診を受けるなど一過性ではないトルコと文化交流の機運を得た。万博を契機として一層のプロジェクト展開が期待される。
和歌山県有田市	・国際的視野、国際感覚を養うきっかけとなっ	・現地校との関係強化が図られ今後の相互	・日本・有田市に関する文化・環境といった内	・学生間交流を通じて国際感覚の育成、多

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境、エネルギーといった視点での地域の在り方について考える機会を得た。 	<p>交流の土台ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内への周知広報により中東地域に対する意識醸成・理解促進が行えた。 	<p>容に関する関心が高まり、万博開催時の来県の可能性が生まれた。</p>	<p>文化共生に対する市民の意識向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の魅力の創出と万博を契機とした観光客誘致が期待される。
徳島県上板町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが異文化を直接体験する機会を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藍染めを通じた交流により、日本の伝統技術を海外に紹介した。 ・ 地域の関心が高まり、継続的な国際交流の基盤が築かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上板町内の学校や地域団体のみならず、ヨルダン側でも日本文化に対する関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントを通じて、ヨルダン館およびクラゲ館との協力関係が強化され、今後のプロジェクトの展開が期待される。
福岡県福岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡市をはじめ、西のゴールデンルート全体として中東のインバウンド誘客を目指そうという体制づくりのきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中東の旅行関係者・サウジアラビア大使をはじめとする大使館関係者に西のゴールデンルートを認知いただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本へのツアー設計の際に西のゴールデンルートが選択肢となった。 ・ サウジアラビアと自治体の連携のきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次期万博開催国であるサウジアラビアは多数の関係者の来訪が予想される。その際に西のゴールデンルートにも寄っていただくきっかけとなった。

3. 他自治体への普及・展開方策

(1) 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価

国際交流プログラムは、地域の若者に国際感覚を涵養させ、地域の魅力を再発見し、住民間の結びつきを強化し、地域産業の活力を増強する重要な取り組みである。効果的な実施のためには、以下の点に注力することが重要である。

1) 地域の現状課題、地域特性も踏まえた交流事業計画の策定

有田市では地域経済を支えた石油精製工場の閉鎖という課題を抱える中、次世代エネルギーへの転換に加え、若者の育成、新たな産業の創出といった課題に取り組むことで地域の維持、活性化につながると考えた。どういった課題を抱えているか、資源があるかといった点を踏まえて交流計画を策定することで画一的な計画ではなくそれぞれの地域に即した魅力的な内容となる。

2) 関係者を巻き込んだ機動的な実施体制の構築

海外の国・地域と交流するにおいては先方の目的や動きの違いもあり希望するような交流ができないことも多々ある。外部へのつながり、内部での連携といった複数の関係者を巻き込むことで事業を進めることが可能となる。また、その際においては目的を共有し取り組むことが重要となる。交流相手国との関係作りにおいて専門性の高いコーディネーターの活用することも一から事業を起こす場合はポイントとなる。

上板町の事例では、計画策定段階から小学校やプロジェクト実施事業者を体制に加えることで、実施段階での機動的な対応を可能にしている。このアプローチは、教育機関との連携強化や地域の多様な主体の参画促進を通じて、柔軟かつ効果的なプログラム運営を実現する。

3) 産業振興を視野に入れた官民連携による交流事業計画の策定

国際交流プログラムは、国際交流担当部署と産業振興担当部署が連携して計画を策定することが望ましいである。計画策定段階から地元事業者を参画させることで、より包括的な交流事業を実現することができる。例えば、計画策定段階から産業振興担当部署や市内事業者を体制に加えることで、効果的な交流事業の展開が可能となる。また、実施段階では官民連携による自発的な活動を促進することが重要である。

4) 広域連携による魅力的な交流プログラムの構築

福岡市の取り組みは、単一自治体にとどまらず、「西のゴールデンルート」参加自治体を巻き込んだ広域的なアプローチを採用している。これにより、複数自治体を巡る魅力的な行程

を作成し、JNTO ドバイ事務所との連携を通じて効果的な参加者選定を行い、将来的な観光客増加の可能性を高めることができる。

5) 専門性の高いコーディネーターの活用

円滑な国際交流の実現には、専門知識を持つコーディネーターの活用が効果的である。有田市の事例では、外国文化・宗教に精通した専門家として、在ドバイ日本国総領事館や、現地関係機関とのネットワークを有し現地に支店がある団体に依頼したことで、オンライン交流や現地での交流を円滑に実施することができた。また、教育分野での国際協定締結にも成功している。現地コーディネーターの助言を受けながら、来年度に繋がる大きな成果を残すことができた。コーディネーターは単なる通訳や案内役ではなく、包括的なファシリテーション業務を担うことで、プロジェクトの成果を大きく向上させることができる。

(2) 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制

国際交流事業を円滑に進め、持続可能な関係を構築するためには、適切な実施体制の整備が不可欠である。以下に効果的な取り組みについて述べる。

1) 国際交流員の戦略的活用

国際交流員を国際交流担当部局に配置し、当該交流員を国際交流プログラムに参画させ大きな成果を上げている自治体がある。当該国際交流員は、交流プログラムの企画立案や相手国の市長や学校関係者との連絡調整を行い、通訳や翻訳業務も担っている。また、人的ネットワークの構築にも貢献しており、短期間で効果的なつながりを形成できる。このような人材を実施体制に組み込むことで、事業の円滑な遂行と成果の向上が期待できる。

2) 自治体間連携による相乗効果

単独の自治体での国際交流事業の継続には課題がある場合がある。複数の自治体が連携することで、経営資源を共有化し、事業運営の効率化が図られるとともに、ノウハウの共有や広報力の強化が可能になる。また、自然災害などによるイベント中止のリスクも分散され、事業の継続性が高まる。福岡市の事例では、複数自治体を巻き込んだ「西のゴールデンルート」の取り組みにより、各自治体の受け入れ態勢の把握や相互理解が促進された。

3) 国際機関との連携

上板町の事例では、ヨルダン万博関連組織との連携により、日本語堪能な担当者とのスムーズなコミュニケーションが可能になり、子どもたちのオンライン交流においても通訳支援が受けられた。また、万博中の交流計画の積極的な立案も進められた。

4) 効果的な連携体制の構築

自治体間や国際機関との連携を円滑に進めるために、オンラインでの定期的な会合の開催や情報共有のためのプラットフォームの構築が有効である。これにより、意思決定の遅延というデメリットを最小限に抑えつつ、連携のメリットを最大限に活かすことができる。

(3) 万博閉会後の事業継続性（相手国との関係性の評価）

2025年大阪・関西万博を契機とした国際交流プログラムは、単なる一過性のイベントではなく、長期的な関係構築を目指す重要な機会となっている。各自治体の取り組みから、万博閉幕後の事業継続性と相手国との関係性の深化について、以下のポイントが浮かび上がる。

1) 次世代を中心とした交流の重要性

子どもたちを中心とする国際交流の取り組みは、万博や相手国への関心を高める効果的な方法であることが示された。次世代を担う子どもたち、学校関係者、保護者などの一般市民を交流事業に巻き込むことで、プログラムの持続性が高まる。これは、国際交流を一過性のものでなく、長期的な取り組みとして定着させる上で重要な戦略である。

2) 教育機関との連携強化

福岡市の事例では、サウジアラビア大使の高校訪問を通じて文化交流が行われた。このような取り組みは、将来的な学生交流のきっかけとなり得る。教育機関との連携を強化することで、若い世代の国際理解を促進し、長期的な交流の基盤を築くことができる。

3) オンライン技術の活用

上板町の事例では、オンライン交流の実施により、物理的な距離を超えた継続的な交流の可能性が示された。万博閉幕後も、オンラインツールを活用することで、定期的かつ効率的な交流を維持することが可能となる。

4) 文化交流プログラムの充実

上板町とヨルダンの事例では、藍染めを通じた文化交流が行われ、双方向の文化交流プログラムの充実について合意が得られた。特色ある地域文化を活かした交流は、相互理解を深め、長期的な関係構築に寄与する。

5) 自治体間連携の強化

福岡市、北九州市、岡山市が連携してサウジアラビア大使を招聘した事例は、広域的な

交流の可能性を示している。複数の自治体が協力することで、より多様で充実した交流プログラムを提供し、相手国との関係を多層的に発展させることができる。

6) 国際イベントとの連携

サウジアラビアが次回の万博開催国であることを活かし、両国の万博関係者間の交流を促進することで、長期的な協力関係を構築する機会が生まれている。このような国際イベントとの連携は、交流の継続性を高める重要な要素となる。

第3章. 成果のとりまとめ

1. 関西ウォーカーへの記事掲載

(1) 実施概要

第2章「調査対象プロジェクトの実施結果」をもとに、各調査対象自治体の取組内容について、情報発信 WEB サイトに記載することで、万国際交流プログラムの内容及び地域活性化につながる効果等を、国民やマスコミ等、多くの方に発信する。

具体的には、以下の情報サイトに掲載する。

1) Walker plus (ウォーカープラス) 全国版ポータルサイト

全国のおでかけスポット&イベント情報、地域のトレンドニュースを発信している WEB 情報サイト。

20代~40代のユーザーが多く、月間1億3000万PV・約2000万UU(※月間最大値)規模のサイト。

https://www.walkerplus.com/article_list/

2) 関西満喫 Walker サイト

大阪・関西万博のニュースやトピック等の特集記事を主に掲載している WEB 情報サイト。

<https://theme.walkerplus.com/kansaimankitsu/>

(2) 各自治体の掲載記事

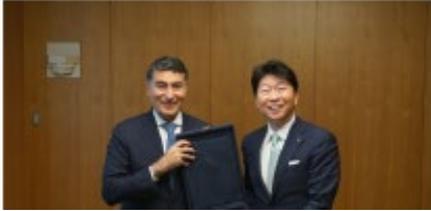
1) 青森県三戸町 <https://www.walkerplus.com/article/1251258/>

【記事抜粋】

<p>【万博国際交流プログラムレポート/中東編02】青森県三戸町とヨルダン国の交流の様子</p> <p>目次</p> <ul style="list-style-type: none">青森県三戸町とヨルダン国の交流のきっかけヨルダン国訪問と現地での交流さまざまな国について、さらに知りたいたいと思ったら万博へ！ <p>いよいよ2025年4月13日(日)に開幕が迫る「2025年日本国際博覧会」(通称：大阪・関西万博)。この大阪・関西万博の開催を前に、そこに参加する国や地域との相互理解や国際交流を通じて、地域の課題解決や活性化を図る取り組みを内閣官房が支援する「万国際交流プログラム」が実施されている。</p>	<p>ヨルダン国訪問と現地での交流</p> <p>2025年2月15日~22日に、三戸町から3名が、ヨルダン国を訪問。それにあわせて、2月2日、3日の2日間で、ヨルダン国の治安状況や万博に関する情報を集めることを目的に、JICA本部及び在米ヨルダン大使館との打ち合わせを行った。</p> 
---	---

5) 福岡県福岡市 <https://www.walkerplus.com/article/1251404/>

【記事抜粋】

<p>【万博国際交流プログラムレポート／中東編03】西のゴールデンルートと中東各国の交流の様子</p> <p>01-01-01 東洋ウォーカー 全国版 全国のニュース ライフスタイル</p> <p>目次</p> <ul style="list-style-type: none">「西のゴールデンルート」とは?中東の関係者へ向けた「FAMツアー」駐日サウジアラビア大使による表敬訪問さまざまな国について、さらに知りたいたいと思ったら万博へ! <p>いよいよ2025年4月13日(日)に開幕が迫る「2025年日本国際博覧会」(通称：大阪・関西万博)。この大阪・関西万博の開催を前に、そこに参加する国や地域との相互理解や国際交流を通じて、地域の課題解決や活性化を図る取り組みを内閣官房が支援する「万博国際交流プログラム」...</p>	<p>駐日サウジアラビア大使による表敬訪問</p> <p>今年は日本とサウジアラビアの国交70周年で、駐日サウジアラビア大使もそのことを強調してあり、日本各地の自治体への訪問と今後に向けた関係作りを行いたいと考えていたという。そういった背景もあり、2月17日 - 18日には駐日サウジアラビア大使を招き、西日本各地を訪問。岡山県では、岡山県知事を表敬訪問し、会食を行った。また、岡山市長の表敬訪問のほか、岡山後援会や岡山市、岡山県立オリエント美術館も訪問。岡山後援会高松では、駐日大使と生徒が交流を図った。</p> 
---	---

(3) 掲載結果

掲載期間：2025年3月17日～順次掲載

事業に参加した学校長より、このように情報 WEB サイトにて取り組み内容を取り上げていただけることは大変嬉しいとの声を頂いた。各自治体において、万博国際交流プログラム事業の紹介資料や広報活動として今後活用していく。

2. 各調査対象プロジェクト

A. 青森県三戸町

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

三戸町は、オーストラリア連邦タムワース市と2001年（平成13年）姉妹都市交流締結を行い、その後相互交流を20年以上続けている。基礎自治体としては珍しく町の規程に外国旅費規程があるほど、三戸町では国際交流が一般化している。

他方、10年以上前からはタムワース市に三戸町中学生派遣に限定される取り組みとなっていたことから、他の国との国際交流への機運が三戸町で高まっていた。そのタイミングで「万博国際交流プログラム」の存在を知り、三戸町国際委員会で意見交換を行い、この機会を活かそうという方向となり、関係各所と調整した結果、中東地域への理解を深める好機と考え、ヨルダン・ハシミテ王国（以下、ヨルダン国と表記。）を対象としてプログラムへの参画を決めた。

2) プロジェクトの目的

これまで三戸町にとって未知の国であるヨルダン国を対象とするため、本プログラムでは、ヨルダン国の治安状況や今後の国際交流実施の方向性についての情報収集を行い、今後の交流の青写真を提示することを目的とした取り組みを行う。

(2) 事業内容

1) JICA 本部及び在京ヨルダン大使館との事前打ち合わせ

【日 程】令和7年2月3日

【場 所】JICA 本部、在京ヨルダン大使館

【参加者】（出張者）三戸町 奥山省吾、高田健二

（対応者）JICA 本部 海外第二課長 飯島大輔

在京ヨルダン大使館 Salwa 参事官

JICA 本部との打ち合わせでは、ヨルダンに渡航に向けて、JICA ヨルダン事務所への協力を依頼した。

在京ヨルダン大使館との打ち合わせでは、ヨルダン国訪問および来年度の万博での連携について意見交換を行った。主なポイントは以下の通り。

- ・ 三戸町がヨルダン国と連携することを歓迎する。万博での連携に限定せず、その後も継続的に三戸町とヨルダン国が交流することになればよいと思う。
- ・ 5月7日ナショナルデーでも良いし、他の日程でも良いので、ヨルダン国のパビリオンで三戸町に関するイベント企画（飲食、伝統芸能、子どもたちの交流等）をしていただくと有難い。
- ・ ヨルダン国では、「日本祭り」というイベントを毎年開催している。三戸町がヨルダン国に出張いただき、イベント企画をしていただくことも検討いただきたい。



【在京ヨルダン大使館 サルマ参事官との打ち合わせ】

2) ヨルダン国出張での国際交流及び現地情報収集

【日 程】 令和7年2月15日～2月22日

2月15日 関西国際空港を出発

2月16日 トルコ経由でアンマンに到着 ヨルダン万博スタッフとの面会

2月17日 JICA 海外協力隊派遣校での国際交流活動、在ヨルダン日本国大使館との面談
JICA ヨルダン事務所との面談

2月18日 ワディラム経由でアカヴァへ移動、JICA 海外協力隊員との協議

2月19日 ペトラ遺跡視察、JICA 事務所への報告

2月20日 アンマン発

2月21日 イスタンブール発、関西国際空港着

【参加者】（出張者） 三戸町 奥山省吾、高田健二、万博国際交流プログラム三戸町アドバイザー
大林芽生

（対応者） シファ・ズグール・ハッダード ヨルダン政府代表代理
アガディール・ジュワイハン アル・マナール宮殿館長、タグリッド・モハメッド王女
ハシム ヨルダン万博館長
在ヨルダン日本国大使館 渡辺智子 ヨルダン政府代表ヨルダン
JICA ヨルダン事務所 鈴木貴博次長
佐藤早紀 JICA ヨルダン事務所ボランティアコーディネーター
ソウサン・ハダッド JICA ヨルダン事務所上級現地官
JICA 海外ボランティア 横田翼さん（小学校教師）
伊是名 英正 JICA 海外ボランティア（環境教育）



【ヨルダン国の小学校での国際交流】



【Shifa 万博担当局長との意見交換後の記念撮影】

3) 在京ヨルダン大使館への報告

【日 程】 令和 7 年 2 月 24 日～2 月 25 日

【参加者】（出張者）三戸町 高田健二

（対応者）在京ヨルダン大使館サルマ参事官

ヨルダン国出張の結果を報告し、今後の万博国際交流プログラムをどのように展開していくのか意見交換を行った。



【在京ヨルダン大使館サルマ参事官への出張報告】

（3）実施に至った経緯

ヨルダン国の治安状況や万博に関する情報を集める意図から、2 月上旬に JICA 本部と在京ヨルダン大使館を訪問した。また、2 月中旬からはヨルダン国に出張し、帰国後に在京ヨルダン大使館に報告を行った。

（4）実施スケジュール

令和 7 年 2 月 3 日 JICA 本部及び在京ヨルダン大使館との打ち合わせ

令和 7 年 2 月 15 日～22 日 ヨルダン・ハシミテ王国出張（現地での国際交流及び打ち合わせ）

令和 7 年 2 月 24 日～25 日 在京ヨルダン大使館への出張報告

(5) 実施体制

三戸町役場総務課が業務を所管。

ヨルダン国万博担当者、JICA、在京ヨルダン大使館、在ヨルダン日本国大使館との良好な関係を構築できるよう、アドバイザーからの助言もいただきながら業務を行った。

(6) プロジェクトの目標に対する成果

今回のプログラムをとおして、これまで三戸町とご縁がなかったヨルダン国との国際交流実施について、今後、現実的に実施していく可能性を高めることができたと思う。

三戸町のように国際交流については姉妹都市交流の経験に限定される地方自治体は、いきなり大規模な国際交流を行うのは困難であるため、身の丈に合った国際交流から始めることで、万博が終わったとしても続く関係性の醸成につなげることができると考える。

今回の万博国際交流プログラムの成果は、以下の3点だと考える。

①在京ヨルダン大使館・ヨルダン国万博担当者・JICA との良好な関係づくりができたこと

国際交流は相手があって成立する事業であるので、連携して実施する相手国関係者や日本側組織との良好な関係づくりが基盤となる。在京ヨルダン大使館への訪問やヨルダン国への出張は、そうした関係づくりの好機であり、それらの出張をしたことで、万博関連の要となる方々と SNS でやりとりできるぐらいの良好な関係をつくることができた。

②ヨルダン国の治安状況が安定していることの確認ができたこと

三戸町に限らず「イスラム国やアラブの春などが起こった中東地域は危険」という印象が定着していることから、ヨルダン国の日常が危険な状況にあるのかを確認することを兼ねてヨルダン国出張を行った。自分たちの印象だけでなく、邦人保護の責務がある在ヨルダン日本国大使館の渡邊次席からも、ヨルダン国の治安状況は安定していることを伺うことができた。

③三戸町によるヨルダン国での国際交流では JICA 海外協力隊と連携して実施すること

三戸町がゼロから国際交流を始めるのはハードルが高い。そのため、すでに日本人との関係性ができている学校や地域と連携して国際交流を行うことが妥当である。

今回のヨルダン国出張では、JICA ヨルダン事務所の支援を得て、JICA 海外協力隊の方が活動している学校で、国際交流をさせていただいたところ、短い時間で初対面にも関わらず、円滑に国際交流を行うことができた。加えて、お会いした JICA 海外協力隊の方は、私たちが同学校に持参した折り紙やお箸を活用して訪問から数日後に日本文化理解講座を開催してくださった。継続した国際交流を行うという観点からも、現地でフォーカスポイントになる方とご一緒することが有用であることを実感できたことから、JICA 海外協力隊と連携して国際交流を行う方向で考えている。

特に、在京ヨルダン大使館もヨルダン国万博担当者も、三戸町と一緒に取り組むことについて前向きに考えてくださっており、具体的な万博会場での連携についても話し合う段階にあると考える。来年度も、万博国際交流プログラムで具体的な国際交流を推進していきたいと考えている。

いくつかの企画を実施できなかった点については、外部要因の影響を大きく受けた結果だった。具体的には、令和 6 年 10 月の在京ヨルダン大使館リーナ大使の離任と後任大使の不在、本年のラマダンが 2 月 28 日から始まることによる 1 月以降のヨルダン国関係者の多忙な状況、令和 6 年 12 月から続く青森県で豪雪警報発令による気象状況悪化などの外部要因である。そうした負の影響はあるものの、在京ヨルダン大使館訪問やヨルダン国出張により、来年度に向けての基礎固めを行うことができたという意味でも、今年度のプログラム実施の意義は大きかったと考える。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

在京ヨルダン大使館とヨルダン国万博担当局長からは、「大阪・関西万博を契機として三戸町との国際交流を進めていきたい」とのご要望をいただくことができた。ヨルダン国では、毎年「日本祭り」というイベントを開催しているという。来年度に限定せず、将来、三戸町からヨルダン国で開催される「日本祭り」に三戸町が出展するような展開が実現すればよいと思われる。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- ヨルダン国側（在京ヨルダン大使館、Shifa ヨルダン万博担当局長）が、三戸町との連携を望んでくださったことから、円滑に打ち合わせを行うことができた。
- 在ヨルダン日本国大使館からも、今後、三戸町がヨルダン国で国際交流を行う際には、大使館で最大半日程度のプログラムをつくることも可能であるとの回答をいただくことができた。
- JICA ヨルダン事務所のサポートを得て、JICA 海外協力隊員の派遣先の学校での国際交流を行うことができ、今後の三戸町によるヨルダン国での国際交流の方向性を見出すことができた。
- 万博国際交流プログラム三戸町アドバイザーを業務委託することができたため、ヨルダン国についての情報提供をいただくのみならず、ヨルダン国側との総合調整や各種事務手続きもサポートいただくことができ大いに役立った。
- 万博国際交流プログラム事務局の NTT データ経営研究所の助言がとても役立った。

2) 苦労した点

- 別のところでも記載したが、外部要因（大使離任と後任不在、青森県の豪雪警報など）の影響により、いくつかの企画を実施することができなかった。新たに関係を醸成している現段階で無理に実施する場合、相手先との関係悪化や役場職員や住民の支持が得られないという負の影響が懸念されたことから、実施を見送らざるを得なかった。
- 三戸町は、プロトコルを重んじる自治体であることから、まずはヨルダン国関係者（在京ヨルダン大使館員）に来訪いただき、町長や国際委員会と面談してから、初めて次のステップに進むこ

とができるという手順を踏む必要があるが、大使館の都合がどうしてもつかず、その最初の段階を実現することが叶わなかったことが残念であった。

(9) 今後の課題

今年度新たに取り組んだ万博国際交流プログラムであるので、「三戸町が、なぜヨルダン国と国際交流をするのか」という疑問を持った地域住民がまだまだ多い状況である。

また、今回のヨルダン国訪問も 3 人しか現地に行っておらず、ヨルダン国の事情に詳しい地域住民もほぼ皆無という状況にあるため、「ヨルダン国との国際交流を進める」ということを認知していただく取り組みをしていくことが現段階では重要であると考えている。

そのためにも、まずは、在京ヨルダン大使館の方々に三戸町に来訪いただくことを実現したい。そこから、ようやく万博国際交流に向けた機運を高めることにつながると思料する。

また、「ヨルダン国に訪問する絶対数を増やす」というリアルな体験が不可欠であることから、可能であれば令和 7 年度も万博国際交流プログラムを行い、持続的に展開するための基盤づくりを行いたいと考えている。特に三戸町長がヨルダン国に行くことが叶えば、ヨルダン国との交流推進の勢いがつくものと思料するため、なんとか町長のヨルダン国訪問を実現したい。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- ヨルダン国ナショナルデー（5 月 7 日）に三戸町住民が万博会場を訪問する機会をつくる予定
- ヨルダン国ナショナルデー以外の日程で、ヨルダンバビリオンでのイベント実施も検討中
- 可能であれば、ヨルダン国に出張し、帰国報告会を万博会場で開催したい。

(万博閉会后)

- 在京ヨルダン大使館とは定期的に交流して、良好な関係を継続していきたい。
- 毎年ヨルダン国で開催される「日本まつり」に 1 回以上は三戸町から出展することを検討。
- 他の国際交流プログラムがある場合、ヨルダン国での登録を検討。

(11) 持続的に展開するための工夫

国際交流の基本は「人のつながり」であり、「楽しいこと」、「気づくこと」、「感情が動くこと」といったことが関わった方々に起こることが、その後持続的に展開することにつながる。

内閣府の実施している「東南アジア青年の船」や「世界青年の船」といった事業が大きく支持を得ているのも、そうした楽しさや気づきといったインパクトを参加者に残すためだと思料する。そのため、本事業をとおして、三戸町の地域住民たちに「楽しさ」や「気づき」を起こし、「感情を動かす」ことに寄与していく取り組みを行いたいと考える。

いきなり大きな国際交流事業（イベント、相互交流など）を行うのではなく、身の丈に合わせて国際交流事業を実施し続けていき、徐々に大きくしていくようなステップを踏んでいきたい。

B.東京都渋谷区

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

本プロジェクトは、大阪・関西万博を契機として国際交流を促進し、地域の文化的多様性を高めることを目的に実施した。

今回の取り組みはその延長線上に位置付けられる。地域における異文化理解の促進、教育的価値の提供、音楽を通じた国際交流の活性化を背景として、本プロジェクトを企画した。

2) プロジェクトの目的

本プロジェクトは、以下の目的を達成することを目指し、企画・実施した。

- ・2025年大阪・関西万博を契機に、地域と世界をつなぐ音楽・国際文化交流の場を創出する。
- ・トルコの伝統および現代文化を、より多くの日本人に体験してもらい、また日本在住のトルコ人にも来場していただき、一つの場所で共に音楽を楽しむことで、国際交流理解を深める。

(2) 事業内容

1) トルコ料理教室「世界三大料理 トルコ料理の定番 スープ・スイーツをつくろう」

【日程】令和7年2月9日、2月16日

【場所】上原社会教育館 料理室

【参加者】渋谷区の大人、小学生（親子）を対象

トルコ料理の定番であるスープ・スイーツの料理教室をトルコ人講師が担当。9日は大人を対象（中学生以上）、16日は小学生を対象（親子）で実施した。料理内容は下記の通り。

- ・ スープ：レンズ豆のスープ
- ・ スウィーツ：イチジクミルクペースティング

また、料理だけではなく、トルコ文化について、日本との違い、今回作った料理以外の定番のトルコ料理についてもレクチャーした。



【2月9日大人コース（中学生以上）】



【2月16日は小学生コース（親子）】

2) サブプログラム 渋谷ハチコウ大学 トルコ民謡・伝統音楽ショーケース講座

【日程】令和7年2月25日

【場所】渋谷ヒカリエ8階 渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ イベントスペース

大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー・中島さち子のナビゲートによる、トルコ打楽器奏者のハッカ
ン・ヴレスカラとトルコ伝統音楽マルチ奏者のデニズ・マヒル・カルタルによるトルコの豊かな伝統音楽を体験
するショーケース講座。



↑右がハッカ氏、左デニズ氏

3) サブプログラム 渋谷ハチコウ大学 トルコ写真小講座

【日程】令和7年2月26日

【場所】渋谷ヒカリエ8階 渋谷生涯活躍ネットワーク・シブカツ イベントスペース

2014年から東京に繰り返し滞在し、街や人々、音楽アーティストなどを撮影を続けてきたイスタンブ
ルの写真家アイリン・ギュンギョルによるトルコ写真講座。



↑左がアイリン氏、右が通訳のサラーム海上氏



4) トルコ渋谷クロッシング

【日程】令和7年3月1日

【場所】渋谷区上原教育会館

【参加者】渋谷区在住・在勤・在学を中心にトルコに興味のある方

トルコ音楽コンサート、トルコ写真家の写真展、トルコ料理教室、トルコ語講座、と施設内複数の会場で、トルコの現代文化を多角的に紹介。来場者は、トルコ文化を五感で体験。以下の勉強会を実施した。

- ・ トルコ語講座

普段では馴染みの薄いトルコ語をわかりやすく体験してもらう講座。小学生以下と中学生以上に分けて実施。講師はユヌス・エムレ・インスティテュート東京のジェムさんが担当。大人向けコース（中学生以上）と、小学生コース（親子）の2回実施した。



【大人向けコース（中学生以上）】



【右が小学生コース（親子）の様子】

- ・ トルコ料理教室

ラジオDJ／中東料理研究家 サラーム海上による料理教室と、最新の現地取材を元とした料理レクチャー。参加者による調理は行わず、現場にて調理済みのトルコ料理を試食してもらう形式で実施。



【実際に作った料理】



【料理レクチャーを受けている様子】

- ・ トルコ写真展

2014年から東京に繰り返し滞在し、街や人々、音楽アーティストたちの撮影を続けてきたイスタンブールの写真家 AylinGungor による最新の写真展。



【トルコ写真展の様子。約250枚の写真を展示】

・ トルコ音楽コンサート

パーカッショニスト歌手 Hakan Vreskala (ハッカ・ヴレスカラ) と、歌手／マルチ楽器奏者の Deniz Mahir Kartel (デニズ・マヒル・カルテル) による、トルコ民謡、冠婚葬祭の大太鼓ダヴル演奏、伝統楽器とエレクトロニクスを使ったパフォーマンス、日本人ダンサーNourah との共演、さらに大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」プロデューサー中島さち子率いる KURAGE Band との合同演奏では、トルコ伝統音楽、韓国民謡、オリジナル曲を披露。最後はダンサーNourah と会場の観客を巻き込んでの踊りと音楽で、トルコと日本の文化交流を体全身を使って体験。



【ハッカ・ヴレスカラ氏による演奏】



【デニズ・マヒル・カルテル氏による演奏】



【日本人ダンサーNourah による民族舞踊】



【最後に会場の観客と一緒に踊っている様子】

(3) 実施に至った経緯

渋谷区とトルコ共和国は、古くから関わりが深く、1937年には渋谷区大山町に、トルコ人児童のための小学校が建設された。同地には、現在トルコ共和国により、イスラム礼拝場である東京ジャーミーが建

設され、国内最大級のイスラム寺院として、現在でも地域で親しまれてきた。1978年には、トルコ共和国大使館が渋谷区神宮前に移設され、渋谷区と長く交流を行っており、このような関わりから、渋谷区民とトルコ共和国国民との友好交流を進展させるため、2005年9月には友好都市協定が締結された。

今回はこのような関係のもと、内閣官房「万博国際交流プログラム」の一環として、

渋谷区の主催により、ユヌス・エムレ・インスティテュート東京（トルコ政府機関）、株式会社 steAm（代表：中島さち子）のプロデュース、音楽・料理研究家サラーム海上氏のコーディネートにより、写真、音楽、料理、言語交流を通し、渋谷とトルコの共通点や違い、そしてこれまでの交流の歴史、文化とともにある未来を感じられるようなイベントとして本企画を実施するに至った。

（４）実施スケジュール

令和7年2月9日 トルコ料理教室「世界三大料理 トルコ料理の定番 スープ・スイーツをつくろう」
大人（中学生以上）コース

令和7年2月16日 トルコ料理教室「世界三大料理 トルコ料理の定番 スープ・スイーツをつくろう」
親子（小学生）コース

令和7年2月25日 渋谷ハチコウ大学 トルコ民謡・伝統音楽ショーケース講座

令和7年2月26日 渋谷ハチコウ大学 トルコ写真小講座

令和7年3月1日 渋谷区上原教育会館、トルコ渋谷クロッシング

（５）実施体制

- ・ 主催：渋谷区役所
- ・ 総合プロデュース：中島さち子 steAm inc.
- ・ コーディネート：サラーム海上
- ・ 協力：ユヌス・エムレインスティテュート東京 東京ジャーミイ
- ・ 助成：内閣官房万博国際交流プログラム

（６）プロジェクトの目標に対する成果

- ・ 小さな子供から高齢者まで、幅広い年齢層が来場した
- ・ 写真、語学、料理、音楽、と文化の多角的な面を、視覚・聴覚・味覚・言語様々な感覚を使って体験することができた。
- ・ 写真展では、トルコ写真家の目線の日本の景色を見ることで、その感性と、日本人にとっては日常的である故にこれまで気づけなかった、新しい日本の魅力を発見することができた。
- ・ 現地・海外で活動するアーティストを招聘し、日本人アーティストと共演することで一方通行ではない文化的交流をすることが出来た。
- ・ 来場者は日本人だけではなく、日本在住のトルコ人も多数訪れ、会場で共に同じ音楽を楽しむことで一体感を得た。
- ・ コンサートの終盤では、観客も巻き込んで共に踊ることで、言葉の壁を越えた、多幸感に満ちた交

流が実現できた。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本プロジェクトでは、芸術のみならず、語学、さらに生活に密接な料理文化を味わうことで、人々の身近なところにある国際文化交流・理解の喜びを体験させることができた。今後もこの交流を継続し、持続可能な文化活動としてさらに広げていくことを期待する。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- 写真、語学、料理、音楽、と文化の多角的な面を、視覚・聴覚・味覚・言語様々な感覚を使って体験することが出来た。
- トルコ文化の伝統的な側面と同時に、現代に生きるトルコのアーティスト個人の感性を、よりダイレクトな生きたメッセージとして、来場者に伝えることができた。
- トルコ語講座では参加者は異文化理解を深めることができた。特に、参加者のトルコ語を学ぶ意欲が高く、トルコ人講師に対しての質問（会話）が多く交わされた。また、日本人とトルコ人がトルコ語を使用して交流することは、難しかったが、英語を使用して交流しようとする参加者が多くみられ、交流の場を提供できた。
- 屋内型イベントのため、天候の影響を受けずに済んだ。
- メディア（イッツコムやシブヤ経済新聞）がイベントを取り上げたことにより、イベントの知名度が上がり、万博の知名度向上にも繋がった。
- ゲストのトルコ人は、英語が堪能な方が多かったため、交流に際して特段苦労しなかった。
- 音楽コンサートでは参加者と演者が一緒にダンスを踊るなど、参加者が一方的に演奏を聴くだけでなく、音楽や踊りを通じて交流することができた

2) 苦労した点

- 招聘アーティストの滞在日が、企画本番日に対して余裕を持って設定できず、より深い国際交流・日本文化理解の機会を作りづらい。（本番が終わったらすぐに帰国させなければならない）
- 料理教室は衛生関係の面で保健所への審査を通すのが困難だった。次回以降は保健所の規定を確認したうえで早めに料理内容を決めたほうが良い
- 料理について、特に最近の小学生はアレルギーを持っている子が多く、食事の際は配慮が必要だった。料理内容について、アレルギーの材料について代わりになる材料を提案できると、より参加しやすい内容になり、多様性を意識した講座にもできるかと感じた。
- 講師の変更、料理教室での保健所との確認など不測の事態があったため準備期間にもう少し余裕をもたせると良かった。

(9) 今後の課題

- 継続的な国際音楽・文化交流のための資金の確保
- 料理教室ではトルコ特有の材料が多く、料理教室で学んだ後自宅で再現するのが困難であった。次回開催する場合は、近所のスーパー等で揃えられる材料に絞り、料理教室だけでなく、自宅に帰ってからも継続的にトルコ料理を馴染みのものにしてもらえるような配慮を行いたい。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- 渋谷区職員、区長の関西・大阪万博参加 トルコパビリオン見学・意見交換会など
- 渋谷区内学生のトルコ遠征を行い、トルコの魅力や文化について発信していく
- ユヌス・エムレ・インスティテウトによるトルコ文化講座実施
- 東京ジャーミイによる写真展開催

(万博閉会后)

- 渋谷区図書館内にて万博特集コーナー設置

(11) 持続的に展開するための工夫

トルコ遠征にて学生が学んだことを発表する場を、図書館万博コーナーと抱き合わせで実施する。令和6年度にユヌス・エムレに協力いただき料理教室を実施したが、継続して行いたいとの打診があった。トルコ文化講座の一つとして組むことを検討している。渋谷区民がより身近に日常的にトルコ文化を感じられる場を創出していく。

C.和歌山県有田市

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

ドバイ万博を契機とした新たな国際交流の始まり

2022年（令和4年）度、有田市長によるドバイ万博への訪問をきっかけに、有田市とドバイとの間で交流が始まった。これまで姉妹都市交流はなかったが、総領事館を通じた鮮魚の輸出や市場拡大に向けた実証事業などを通じ、両地域の関係が急速に深まってきている。

次世代エネルギーへの転換と環境学習の推進

地域経済を支えた石油精製工場の閉鎖に伴い、有田市は次世代エネルギーへの転換という大きな課題に直面している。新たに廃食油を原料とする持続可能な航空燃料（SAF）の製造に着手するなど、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを加速させている。

有田市立有和中学校と GEMS Al Barsha National School との学校間連携協定の締結

2024年1月、有田市立有和中学校（以下、「有和中学校」）と GEMS Al Barsha National School（以下、「GNS」）との学校間連携協定を締結している。

多様な価値観に触れる国際教育の推進

本市では2013年（平成25年）度よりオーストラリア（ケアンズ）への中学生海外派遣事業など、中学生の現地国際交流を推進してきている。コロナ禍においては一時中断していたが、2024年（令和6年）度より再開。西洋的価値観に偏りがちであった国際交流に中東地域の学校との交流の機会が加わり、国境を越えて生徒同士が交流することで、真の国際感覚を養うことが期待できる。

2) プロジェクトの目的

有田市の中学生たち一人一人の国際感覚を養うとともに、現地ドバイとの交流を通じて、世界を知り、将来国際的に活躍できる人、環境に配慮したエネルギーや科学技術を活用できる人、さらには多様な価値観や文化の違いを受け入れることで他者への共感を育み、これまでに経験したことのない地球規模の課題にも多様な他者と協働しながら解決に向けて貢献できる人材育成を目指す。

2025年大阪・関西万博を「まちと人の成長」の機会と捉え、市（市民）だけにとどまらず県（県民）の中東地域（ドバイ）に対する意識醸成や理解の促進を図るとともに、インバウンド誘客を促進し「つながりが生む魅力あるまち」となるような息の長い交流を目指す。

(2) 事業内容

1) 生活習慣、文化、伝統等について理解を深めるための UAE（ドバイ）事前学習

【日程】令和6年7月5日

【場所】有田市立有和中学校 体育館

【参加者】有和中学校2年生約200名

大前花奈様（一般財団法人日本国際協力センター（以下、「JICE」）国際研修部国際協力

課 職員) を招聘し、JICE の仕事について、UAE (ドバイ) の日常生活、文化・伝統等、UAE (ドバイ) の環境 (SDGs) についての意識や取組等に関して講義を行った。



【7/5 JICE 大前氏による講義】



【7/5 JICE 大前氏への生徒挨拶】

2) 現地派遣生徒による事前ドバイ学習を複数回実施 (放課後)

【日程】令和6年9月以降

【場所】有田市立有和中学校 2年生教室

【参加者】有和中学校2年生20名 (現地派遣予定者)

ドバイ研修のしおりづくり等、生徒による事前学習を行った。



【派遣生徒による事前学習】



【派遣生徒による事前学習】

3) 各企業 (ENEOS・SUNTORY) からゲストティーチャーを招聘した環境学習 (次世代エネルギー・SDGs)

【日程】令和6年6月21日

【場所】有田市立有和中学校 体育館

【参加者】有和中学校2年生200名

ENEOS 株式会社和歌山製造所の担当職員4名による環境学習(次世代エネルギー)を行った。



【6/21 ENEOS 担当者による講義】



【6/21 講義後の生徒挨拶】

4) 各企業（ENEOS・SUNTORY）からゲストティーチャーを招聘した環境学習（次世代エネルギー・SDGs）

【日程】令和6年9月6日

【場所】有田市立有和中学校 体育館

【参加者】有和中学校2年生約200名

サントリーホールディングス株式会社サステナビリティ経営推進本部の担当職員1名による環境学習（ペットボトルがつくる未来）を行った。



【9/6 SUNTORY 担当者による講義】



【9/6 ペットボトルの粉を手にする生徒】

5) 有和中学校とGNSの生徒同士による事前オンライン交流

【日程】令和6年7月1日 有和中学校×GNS 第1回生徒間オンライン交流（全体会）

令和6年10月29日 有和中学校×GNS 第2回生徒間オンライン交流

（現地派遣予定者のみ）

【場所】有田市立有和中学校 体育館(第1回生徒間オンライン交流)

有田市立有和中学校 大会議室(第2回生徒間オンライン交流)

【参加者】有和中学校2年生約200名、GNS生徒約50名（副校長、エコティーチャー、金森 JICE 現地コーディネーター）（第1回生徒間オンライン交流）

有和中学校2年生20名（現地派遣予定者）、GNS生徒約20名(第2回生徒間オンライン交流)

日本、ドバイそれぞれの国の文化や生活習慣等及び各学校の特色について、生徒がグループ別にまとめた内容についてのプレゼンテーション（代表グループが英語で発表）（第1回生徒間オンライン交流）

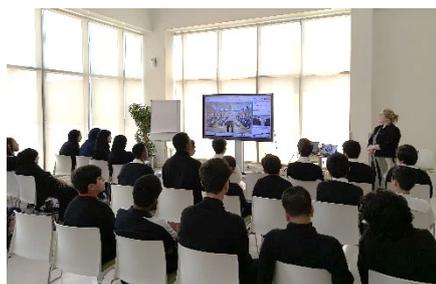
事前に情報共有アプリに有和中学校から派遣予定者の自己紹介情報を入力して GNS と共有。有和中学校生徒は、各自英語で挨拶・自己紹介と渡航に向けた思いを伝えた。（第2回生徒間オンライン交流）



【7/1 オンライン交流会の様子（有和中）】



【7/1 代表グループの発表（有和中）】



【7/1 生徒発表の様子（GNS）】



【7/1 Touati 副校長による開会挨拶（GNS）】



【10/29 オンライン交流の様子（有和中）】



【10/29 グループ発表（有和中）】



【10/29 英語での自己紹介（有和中）】



【10/29 生徒による挨拶（有和中）】

6) 有和中学校生徒ドバイ交流現地派遣プログラム

【日程】令和6年12月2日～12月8日 5泊7日

【場所】ドバイ各地

【参加者】有和中学校の生徒20名

- i) 令和6年12月2日 20:15 有田市役所出発 23:45 関西空港出発
- ii) 令和6年12月3日 4:50 ドバイ空港到着、午前：ドバイフレーム、バージュカリファ展望台、午後：ドバイ未来博物館
- iii) 令和6年12月4日 GNS 学校訪問①
- iv) 令和6年12月5日 GNS 学校訪問②
- v) 令和6年12月6日 午前：日本国総領事館訪問、午後：ワルサン廃棄物処理施設訪問
- vi) 令和6年12月7日 午前：エキスポシティ(ドバイ万博跡地)、アルファヒディ地区
午後：シェイク・モハメド・文化理解センター
- vii) 令和6年12月8日 17:15 関西空港到着 19:30 有田市役所着



(ii) 12/3 ドバイ未来博物館】



(ii) 12/3 ドバイ未来博物館

(iii) 令和6年12月4日 GNS 学校訪問①

12/4～5、GNS 学校訪問では、到着後、盛大な歓迎セレモニーを行っていただき、豪華な食事を振る舞っていただいた。GNS では男子と女子は基本別々に授業を行っているため、有和中学校の生徒も男子と女子にわかれて授業に参加した。はじめは、温通訳、茶畑英語教諭を中心に全体的な通

訳を介してコミュニケーションをとりつつも、活動中心のプログラムが進むにつれて、生徒自らが直接コミュニケーションをとる姿が多く見られた。文化や生活習慣の違いを越えて生徒同士がつながることができたことは、有和中学校の生徒一人一人にとってかけがえのない経験となった。



【12/4 GNS 生徒歓迎】



【12/4 GNS 歓迎セレモニー】



【12/4 GNS 生徒交流（男子）】



【12/4 GNS 生徒交流（女子）】



【12/4 科学実験（男子）】



【12/4 英語授業（女子）】



【12/4 鳥の巣箱作り（男子）】



【12/4 鳥の巣箱作り（男子）】



【12/4 ガーデニングデザイン（女子）】



【12/4 昼食（アラビア料理）】



【12/4 ガーデニング実習（女子）】



【12/4 ガーデニング実習（女子）】



【12/4 有和中校長
からプレゼントの贈呈】



【12/4 けん玉に
チャレンジする男子生徒】



【12/4 ドバイの手遊びをする女子生徒】

1 日目の午前と午後には GNS と有田市の打ち合わせを行うことができた。午後の打ち合わせには両校の校長はじめ、今西在ドバイ日本国総領事もご参加いただいた。2025 年 4 月には万博が開会することもあり、来年度は GNS から生徒が日本（有田市）へ来ていただけるよう、有田市の魅力や有和中学校の様子について PR し、意見を交流することができた。

●午前の打ち合わせ

・日程：令和 6 年 12 月 4 日 10:30～11:15

・参加者：【日本側】森有和中学校長、望月合同会社 SENSE 交流支援業務統括、梅本合同会社 SENSE 交流支援業務コーディネーター、金森 JICE 現地コーディネーター、温通訳、今村内閣官房業務委託担当者、中西統括指導主事
【GNS】Emma 副校長、Gareth 校長補佐

●午後の打ち合わせ

・日程：令和6年12月4日13:30～14:20

・参加者：【日本側】森有和中学校長、今西在ドバイ日本国総領事、八坂副領事、望月合同会社 SENSE 交流支援業務統括、梅本合同会社 SENSE 交流支援業務コーディネーター、金森 JICE 現地コーディネーター、温通訳、今村内閣官房業務委託担当者、中西統括指導主事

【GNS】Thomas 校長、Emma 副校長、Gareth 校長補佐



【12/4 関係者打ち合わせ（午前）】



【12/4 関係者打ち合わせ（午後）】

(iv) 令和6年12月5日 GNS 学校訪問②

GNS 訪問 2 日目は、1 日目よりも生徒同士が自然につながることができ、身振り手振りを含めた英語のコミュニケーションが行えるようになった。サッカーやトランポリンなど体育の授業や、1 日目から継続したガーデニングや鳥の巣箱作りを行い、より交流を深めることができた。

ドバイパビリオンを手がける SHF 財団の担当者が GNS を来訪し面談することになっていたが、都合により来訪できず、面談は実現しなかった。



【12/5 GNS 広報用記念撮影】



【12/5 準備いただいた朝食】



【12/5 GNS による UAE の文化紹介】



【12/5 紙風船で遊ぶ女子生徒】



【12/5 ガーデニング実習（男子）】



【12/5 虫の寝床作り（女子）】



【12/5 ガーデニング完成（男子）】



【12/5 ガーデニング完成（女子）】



【12/5 集合写真（女子）】



【12/5 二日目終了後の記念撮影】

(v) 令和6年12月6日 午前:日本国総領事館訪問、午後:ワルサン廃棄物処理施設訪問
 午前の日本国総領事館訪問では、今西総領事から生徒一人一人に今回のドバイ訪問で感じたことについて問いかけられ、各生徒が答える形で懇談が進んだ。今西総領事の話の中で、英語が使えると世界が広がること、人前で自分の考えを伝えることは重要であること、新しく気づいたことに好奇心をもち、気づきから生まれる問いを大事にしてほしいこと、今回つながりができた友人と今後もつながってほしいこと、また今回の経験を次のステップで生かすとともに、日本と UAE（ドバイ）の架け橋になってほしいということなどが語られた。

午後はワルサン廃棄物処理施設へ訪問し、伊藤忠商事から出向でドバイに来ている田中氏より施設の説明をいただいた。処理場建設の目的は①公衆衛生の維持、②ごみの減量化による埋め立て地の延命③温室効果ガス発生率の削減④焼却時の熱を利用した発電の4つである。発電でできた電気を国が買い取るなど、民間業者と政府の連携で循環型のシステムを構築している。



【12/6 日本国総領事館訪問】



【12/6 今西総領事との懇談】



【12/6 ワルサン廃棄物処理施設訪問】



【12/6 焼却炉見学】



【12/6 施設についての説明】



【12/6 体験コーナー】

(vi) 令和6年12月7日 午前:エキスポシティ(ドバイ万博跡地)、アルファヒディ地区
 午後:シェイク・モハメド・文化理解センター
 エキスポシティは、前回のドバイ万博の跡地である。分別する習慣が定着していないドバイでゴミの分別を意識したゴミ箱が設置されるなど環境に配慮した取組も実践されていたことが分かった。



【12/7 エキスポシティ】



【12/7 エキスポシティ内ゴミ箱】



【12/7 シェイク・モハメド・文化理解センター】



【12/7 昼食：アラビア伝統料理】



【12/7 モスクでの礼拝体験】



【12/7 モスクでの記念写真】

7) 市民の意識醸成とドバイ現地交流についての生徒による成果報告

【日程】令和6年7月25日 14:00 (GEMS 校生徒受け入れに向けての UAE 勉強会)

令和6年11月17日 (市民への意識醸成 (ドバイ交流に係る広報))

令和7年1月23日 14:30~15:30 (現地派遣者20名の生徒による第一回成果報告)

令和7年2月3日 8:15~8:30 (現地派遣者20名の生徒による第二回成果報告)

【場所】有田市役所設備棟多目的室 (GEMS 校生徒受け入れに向けての UAE 勉強会)

有田市立有和中学校 2階大階段廊下 (市民への意識醸成 (ドバイ交流に係る広報))

有田市民会館 紀文ホール (現地派遣者20名の生徒による第一回成果報告)

有田市立有和中学校 体育館 (現地派遣者20名の生徒による第二回成果報告)

【参加者】ALL ARIDA 協議会 2025 会員 10 名、事務局 3 名 計 13 名 (GEMS 校生徒受け入れに向けての UAE 勉強会)

有和中学校生徒、保護者、地域住民、学校運営協議会委員ほか関係者、市役所職員等 (市民への意識醸成 (ドバイ交流に係る広報))

有和中学校 2 年生約 200 名、保護者、地域住民、有田市内外企業関係者、学校関係者、市役所職員等 (現地派遣者 20 名の生徒による第一回成果報告)

有和中学校全校生徒約 600 名、全教職員等 (現地派遣者 20 名の生徒による第二回成果報告)

イベントごとの趣旨を以下に記載した。

- ・ GNS の生徒が来日した際、受け入れ時に連携ができるよう、UAE（ドバイ）について知識・理解を深めるために、UAE という国及び文化、環境問題について知る機会を作った。（GEMS 校生徒受け入れに向けての UAE 勉強会）
- ・ 有和中学校文化祭において UAE（ドバイ）民族衣装の展示を行うとともにドバイ GNS 視察訪問時の映像をスライドショーで広報した。（市民への意識醸成（ドバイ交流に係る広報））
- ・ 有和中学校 2 年生 総合的な学習の時間学習発表会において、「ドバイ現地訪問成果報告」として、現地派遣生徒 20 名が現地ドバイで経験したこと、感じたこと、学んだことなどをグループ別にまとめ、プレゼンテーションを行った。（現地派遣者 20 名の生徒による第一回成果報告）
- ・ 1 月 23 日に報告した内容について有和中学校 2 年生以外の全校生徒に報告した。（現地派遣者 20 名の生徒による第二回成果報告）



【7/25 All ARIDA 協議会 2025】



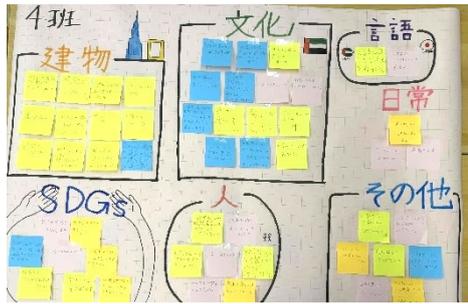
【7/25 勉強会の様子】



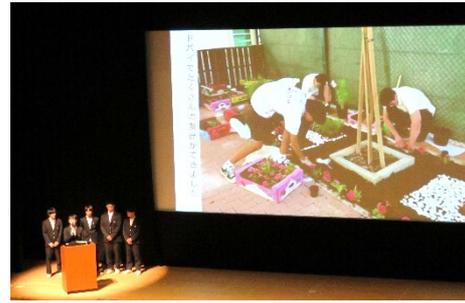
【11/17 有和中文化祭での民族衣装展示】



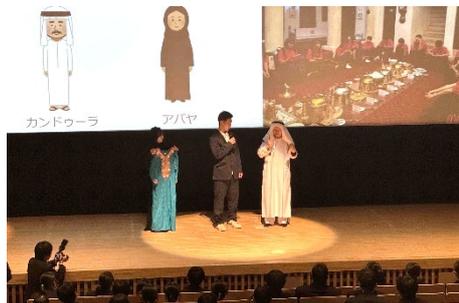
【1/23 成果報告に向けた振り返り】



【1/23 成果報告まとめ】



【1/23 生徒による成果報告】



【1/23 生徒による成果報告】



【2/3 生徒による成果報告】

(3) 実施に至った経緯

令和 5 年（2023 年）度万博国際交流プログラム事業を活用し、2024 年（令和 6 年）1 月、有和中学校と GNS が学生及び学校間の教育交流と文化理解を促進するための協力関係の確立に向けた以下の内容について、学校間連携協定を締結している。

【協定内容】

- ①共同教育プロジェクト：環境の持続性、テクノロジーなど相互に関心のあるテーマについて、協働的な探究学習の実施
- ②交換留学プログラム：学生がお互いの文化や教育システムを体験するための短期交流訪問
- ③文化交流イベント：お互いの文化や伝統を祝うイベントや活動の企画

令和 6 年（2024 年）度も引き続き本事業及び有田市子ども未来基金を活用し、有和中学校生徒 20 名をドバイへ派遣することに至った。現地交流において生徒同士の学びをより深めるために、UAE（ドバイ）の文化や人々の生活について学ぶ事前学習をはじめ、関係企業（ENEOS, SUNTORY）と連携し、サステナブルコラボレーションをテーマとした環境学習に取り組むこととした。また、今年度の学びの成果報告として生徒たちによる発表の機会をもつことにより、ドバイの文化等について市民の理解を深める機会とした。

また令和 7 年（2025 年）度開催される大阪・関西万博に向けて、ドバイとの交流の様子と学びを万博会場（ドバイパビリオン）で発表することを視野に入れて今年度の事業を行った。

現地 GNS との有田市における情報共有についてはメールでのやりとりが中心であったが、関係者間協議（オンライン）を行い、互いのイメージの共有を図った。さらに GNS 以外にも、日本国総領事館及び 2025 大阪・関西万博でドバイパビリオンを手がける SHF 財団とオンライン協議を行い、連携を図るようにした。

（4）実施スケジュール

令和 6 年 5 月 8 日 有田市とドバイ SHF 財団とのオンライン協議①
令和 6 年 5 月 14 日 ドバイプロジェクト キックオフ（望月良男前有田市長による講義）
令和 6 年 5 月 15 日 有田市と県万博推進課との情報交換会（和歌山県庁）
令和 6 年 5 月 16 日 有和中学校と GNS のオンライン協議①（今年度の見通し）
令和 6 年 6 月 21 日 環境学習（次世代エネルギー）（ENEOS 和歌山製造所担当者による講義）
令和 6 年 7 月 1 日 有和中学校×GNS 第 1 回生徒間オンライン交流（全体会）
令和 6 年 7 月 5 日 事前学習（JICE 国際研修部国際協力課職員大前花奈氏による講義）
令和 6 年 7 月 17 日 ドバイ現地派遣希望者 作文試験
令和 6 年 7 月 18 日 日本国総領事館とのオンライン協議
令和 6 年 7 月 25 日 All ARIDA 協議会 2025（万博を機に地域経済の発展やインバウンド誘客に取り組んでいる協議会）における研修
令和 6 年 8 月 1 日～8 月 2 日 ドバイ現地派遣希望者 面接試験
令和 6 年 8 月 20 日 ドバイ現地派遣者 保護者説明会
令和 6 年 9 月 6 日 環境学習(SDGs：ペットボトルがつくる未来)(SUNTORY 担当者による講義)
令和 6 年 9 月 30 日 有和中学校と GNS のオンライン協議②（12 月訪問詳細について）
〔※令和 6 年 9 月以降、現地派遣者 20 名によるグループ別の事前ドバイ学習を複数回実施（放課後）〕
令和 6 年 10 月 11 日 有田市とドバイ SHF 財団とのオンライン協議②
令和 6 年 10 月 29 日 有和中学校×GNS 第 2 回生徒間オンライン交流（現地派遣予定者）
令和 6 年 11 月 20 日 ドバイ現地派遣者 保護者説明会（最終）
令和 6 年 12 月 2 日～12 月 8 日 ドバイ交流現地派遣プログラム
（有和中学校生徒 20 名・学校教職員 3 名・教育委員会担当 1 名・通訳 1 名）
令和 7 年 1 月 14 日 有田市とドバイ SHF 財団とのオンライン協議③
令和 7 年 1 月 23 日 「2 年生総合的な学習の時間の学習発表会」での生徒による成果報告
令和 7 年 2 月 3 日 有和中学校全校生徒及び教職員への成果報告
〔※令和 7 年 3 月 18 日【予定】：有和中学校×GNS 第 3 回生徒間オンライン交流（現地派遣者）〕

(5) 実施体制

有田市教育委員会及び有和中学校を中心に下記の通り実施体制を構築し、業務を実施した。

実施者氏名	業務分担	所属・役職
泉 泰朗	業務責任者（全体統括）	有田市教育委員会参事
中西 朋子	業務担当者（事業内容全般）	有田市教育委員会教育総務課統括指導主事
上野山 恭 実	業務担当者（経理・事務等）	有田市教育委員会教育総務課総務係長
桃井 克博	業務担当者（外部機関への連絡）	有田市役所秘書広報課長
石井 滝称	業務担当者（大阪・関西万博推進）	有田市役所ふるさと創生室長
中嶋 隼人	業務担当者（All ARIDA協議会2025）	有田市役所ふるさと創生室ブランド推進係
森 元	学校責任者（現地引率統括）	有田市立有和中学校校長
中谷 悦也	学校担当者（学年主任）	有田市立有和中学校教諭
茶畑 和也	学校担当者（現地引率）	有田市立有和中学校教諭
屋 杏奈	学校担当者（現地引率）	有田市立有和中学校教諭
金森 篤也	現地コーディネーター兼通訳	JICE国際研修部国際協力課・副主幹（アブダビ事務所長）
大前 花奈	JICE業務担当兼授業講師	JICE国際研修部国際協力課・職員
温 馨	通訳	アクセンチュア株式会社ビジネスコンサルティング部マネージャー
望月 良男	交流業務統括	合同会社SENSE代表
梅本 陽子	交流支援業務コーディネーター	合同会社SENSE
今村 明子	内閣官房業務委託担当者	株式会社NTTデータ経営研究所

《関係機関等》

機関名	関わり
在日本アラブ首長国連邦大使館	UAEパビリオン等万博についての情報収集
SHF	UAEパビリオンを手がける財団

	令和7年、大阪・関西万博9月19日UAEナショナルデーでの生徒プレゼンテーションに向けた連携・協力
和歌山県万博推進課 和歌山県教育委員会	令和7年、大阪・関西万博への参画、ドバイ生徒受け入れに向けた協力（今後具体的に依頼）・ 県立高校生等の参画に向けた検討
JTBなどの旅行会社	令和6年/7年、有和中学校生徒ドバイ現地訪問、令和7年、ドバイ生徒受け入れに向けた具体的な検討

(6) プロジェクトの目標に対する成果

- 今回対象とした有和中学校2年生約150名に行ったアンケートで「万博を契機とするUAE（ドバイ）との国際交流についてどう思いましたか？」という問いに対し「非常に良い取組/良い取組」と肯定的に回答した生徒の割合は91.3%と高く、今回のプロジェクトが生徒たちにとって意義のある取組であったと言える。
- ドバイ現地訪問へ参加した20名へのアンケートにおいて、UAE（ドバイ）へ行く前と行った後の国際的視野の変化について「大きく変わった/変わった」と回答した生徒は95%であった。また気持ちの変化について「海外に興味が湧いてきた」と回答した割合は90%と高い値を示していたことから、生徒が現地へ訪問したことが生徒一人一人の国際感覚を養うきっかけにつながったと考えられる。
- 環境学習では企業からゲストティーチャーを招聘し、企業が実践する次世代エネルギーやSDGsの取組を学ぶことができた。生徒が新たな知識や気づきを得る機会となり、環境に配慮したエネルギーや科学技術を活用しながら、未来の地球規模の課題に向き合うことの必要性を感じる機会となった。
- 2025年大阪・関西万博を「まちと人の成長」の機会と捉え、市（市民）だけにとどまらず県（県民）の中東地域（ドバイ）に対する意識醸成や理解の促進を図ることを目的としていた。有和中学校文化祭時に民族衣装と関連動画を提示し広報を行ったが、来場した保護者、地域住民の方のみへの周知にとどまった。インバウンド誘客を促進し「つながりが生む魅力あるまち」となるような息の長い交流を目指すため、有田市役所内の体制の再構築と県関係機関との連携強化を図るとともに、事業について協議を深め、中東地域（ドバイ）に対する意識醸成や理解の促進をさらに図っていく必要がある。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- 有和中学校とGNSとの学校間、生徒間交流を通じて、一人一人の国際感覚を養っていくとともに、多文化共生に対する市民の意識を高める。また自分たちの住んでいる地域の魅力を創出し、万博を契機とした観客誘致を推進することで地域経済の活性化につなげる。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- 関係機関との連携について、昨年度からのつながりをより強化し、実効性のある関係を構築することができた。さらに新しく UAE パビリオンを手がける SHF 財団との関係を構築することができた。
- JICE アブダビ事務所長の金森氏には、現地コーディネーターとして GNS、SHF へ直接足を運んでいただく機会が複数回あり、事業を円滑に進めるために現地コーディネーターは必要不可欠であった。
- ドバイプロジェクトのキックオフで前市長が直接ドバイとの交流の意義を語ったことが、中学生たちの意欲向上に繋がった。生徒アンケートにおいて、「UAE（ドバイ）を知る上で事前学習は有意義でしたか」という質問項目に対し、「とても有意義だった/有意義だった」と肯定的に回答した生徒が 89.2%であった。また、「事前学習をとおして UAE（ドバイ）に行ってみたいと思いましたか」という質問項目に対し、「とても行ってみたいと思った/行ってみたいと思った」と肯定的に回答した生徒が 82.5%と高い値であった。生徒の回答結果からも、今回の国際交流に係る事前学習は生徒たちにとって成果があったということが立証された。

2) 苦労した点

- 現地GNSとの情報共有についてメールでのやりとりが中心であったが、学校のスケジュールにおいて休暇の期間等も重なることがあり、連絡が取りにくい時期があった。
- 生徒渡航の時期について、気候面の配慮もあり、限定された期間において両校が可能な日程調整となり、調整が難航した。
- 文化や生活習慣の違い等、日本の感覚とは違う部分もあるため、12月訪問時の詳細について確認すべきことが多くあったが、どの程度まで詰めておくべきかなど配慮を要した。
- 各機関との関係構築においては、継続的なコミュニケーションをとるために、情報共有や連携会議の在り方を整理していく必要がある。

(9) 今後の課題

- 現時点では有和中学校とGNSの教育交流が中心となっているため、教育委員会が中心となって進めてきた。来年度は万博開催期間になるため、有田市役所内関係課との連携体制の強化、さらには県万博推進課等との情報共有と連携について再協議していく必要がある。
- GNSの来年度の方向性については、まだ決定していない部分が多いため、切れ目ないコミュニケーションをとり、情報共有を行っていく必要がある。GNS生徒が来日することになれば、滞在期間中のハラル対応等、配慮が必要な部分が多くあることが予想されるため、関係機関と具体的な協議を進めていく必要がある。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- 市内全小中学校が 2025 大阪・関西万博への教育旅行を実施予定。有和中学校の教育旅行は UAE ナショナルデー（令和 7 年 9 月 19 日）に計画しており、全校生徒約 600 名が万博会場を訪れることになっている。
- 12 月の現地訪問に参加した生徒 20 名については、①有和中学校の紹介②環境学習（SDGs）など授業で学んできたこと③ドバイを訪問、現地交流して得た学びや気づき④地球規模の課題解決に向けた考えについて、UAE パビリオンの会場で、当日パビリオンを訪れた一般の方、UAE 関係者等に対しプレゼンテーションでの発表を計画している。
- GNS 生徒の来日については現在検討段階であるが、もし実現することになれば、9 月 19 日に共同プロジェクトとしての発表が可能か検討していく。
- GNS 生徒が来日することになれば、有和中学校への訪問をはじめ、生徒の受け入れについて、和歌山県、有田市の万博誘客推進事業担当課等へ働きかけを行い具体的に連携していく。
- 2025 大阪・関西万博会場における有和中学校生徒による成果報告を実施することについて、市民、県民へ広報していく。

(万博閉会后)

- 有和中学校と GNS の交換留学プログラム（オンライン交流を含む）を継続⇒令和 7 年度 12 月に有和中学校生徒の現地派遣を予定
- 市民へのさらなる意識醸成とドバイとの更なる親睦に向けて、他分野での交流の検討

(11) 持続的に展開するための工夫

- 関係企業との連携を図り、寄付いただいた予算を有田市こども未来基金として継続的に活用できるようにする。また令和 8 年度以降の事業継続については予算に応じて、目的、募集対象等を含め検討していく必要がある。（ENEOS からは令和 8 年度まで寄付予定）
- GNS との教育交流を継続していく意義・目的について、令和 7 年度以降もドバイ現地派遣に参加した生徒たちの発信の機会等を活用し、学校関係者、市民等に広く周知していく。
- 有和中学校と各関係機関がやりとりをスムーズに行えるようにするため、教育委員会がコーディネーターとして、GNS、関係企業・機関等と連携をとり、継続した事業にしていく。
- 教育交流を継続しながらも教育分野だけではなく、産業等、他分野の交流も含めたまちと人の成長につなげるための取組とし、事業を推進する庁内の体制づくりを再検討する必要がある。

D.徳島県上板町

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

本プロジェクトは、2025 年大阪・関西万博を契機に、徳島県上板町がヨルダンとの国際交流の促進と地域課題の解決を目的として実施された。特に、上板町が抱えていた以下の課題や将来像に対し、ヨルダンとの交流を通じて息の長い国際交流を目指すとともに、解決策を模索することが背景となっている。

- 地域の子どもたちの国際理解教育の機会の拡充
- 伝統文化（藍染めなど）の継承と発信、また他国の藍染めとの連携による人材育成や産業拡大
- 国際イベントへの関与を通じた地域の活性化

2) プロジェクトの目的

上記の背景を踏まえ、本プロジェクトは以下の目的を持って実施された。

- 子どもたちが大阪・関西万博を通じて異文化を学び、関係する多様な方とのコミュニケーションを通じて国際的な視野を広げる
- ヨルダンと日本の伝統文化を共有し、相互理解を深める
- 万博を契機とした継続的な国際交流の基盤を構築する

(2) 事業内容

1) 高志小学校とヨルダン万博関係者とのオンライン交流

【日 程】令和6年11月15日

【場 所】高志小学校

【参加者】高志小学校生徒、小谷光子様（JICA 海外協力隊）

JICA 海外協力隊（ヨルダン国赴任中）の小谷光子様より、「ヨルダンってどんなところ？」「ヨルダンと日本の違い」「私のヨルダン生活」の内容でオンライン講座を実施いただいた。



2) 高志小学校とヨルダンの子どもたちとのオンライン交流

【日 程】令和7年1月10日

【場 所】高志小学校

【参加者】高志小学校の生徒、ヨルダンフィーファ小学校の生徒

高志小学校5年生とヨルダンフィーファ小学校の子どもたちがオンライン交流。

自己紹介や互いの国の事、地域の特徴、食文化を紹介し合った。以下の流れで実施。

- ・ 高志小学校から自己紹介（児童1名ずつ）、発表
- ・ 名前・好きな食べ物・地域紹介など写真を持って子どもたち自身が発表
- ・ ヨルダン側から自己紹介（地域や文化の紹介）
- ・ 高志小学校からフィーファ小学校の皆様へ自己紹介
- ・ フィーファ小学校から高志小学校へ自己紹介



3) ヨルダン×上板町成果発表イベント

【日 程】令和7年1月26日

【場 所】技の館

【参加者】地元住民、ヨルダン万博関係者、中島さち子大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー

ヨルダンとの交流促進、地域住民への理解促進、大坂・関西万博への接続等を目的に、ヨルダン万博関係者や中島さち子大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー（オンライン）を招聘し、令和6年度の上板町とヨルダンの交流活動の紹介、万博関係者からのプレゼンテーション、藍染め交流体験などで構成される発表会イベントを実施。



4) ヨルダン現地渡航と藍染技術関連の交流

【日 程】令和7年2月13日～20日

【場 所】ヨルダン各地（詳細は以下に記載）

【参加者】上板町より5名派遣

以下詳細な旅程と交流内容を記載する。

- ・ 2月13日徳島→イスタンブール移動（徳島阿波おどり空港→羽田空港→イスタンブール空港）
- ・ 14日イスタンブール→アンマン移動（イスタンブール空港→Queen Alia国際空港）
 - 首都アンマン滞在・マーケット視察等
 - PTIWSのための下見・施設見学



- ・ 15日 GHLRSAFI
 - PTI(Princess Taghrid Institute)の女性団体との藍染めワークショップ



- PTI(GhorSafi) での交流、施設見学



- ・ 16日現地関係者との面会など
 - PTI(Princess Taghrid Institute)総監督 Dr.AghadirJwaihian 氏
 - 面会・オフィス訪問、ヨルダンとの交流に取り組む青森・三戸の方々と面会



- ・ 17日 GHORSAFI での藍染交流ワークショップ・政府関係機関訪問
 - 高志小学校とオンライン藍染め交流、ヨルダン政府教育省訪問、ヨルダン政府観光省（JTB）訪問、観光・古代遺跡大臣 **LinaMazharAnnab** 氏面会、在ヨルダン大使館訪問



- ・ 18日・19日アンマン→羽田移動
- ・ 20日羽田→徳島

5) 高志小学校とヨルダンの子どもたちとの藍染めオンライン交流

【日 程】令和7年2月17日

【場 所】オンライン

【参加者】高志小学校5年生、GhorSafi 周辺の小学校6年生

高志小学校5年生とヨルダン GhorSafi 周辺の小学校6年生がオンラインで藍染め体験交流を実施。互いの国の藍染め手法を実際の染め体験を通じて紹介。高志小学校からは、子どもたちが染めた藍染め作品の紹介も行われた。



6) 大阪・関西万博に絡めた映像作成

ヨルダンと徳島県上板町の交流活動を記録し、万博期間中にヨルダンのパビリオンで上映する映像を制作すること。この映像は、藍染め体験の様子や体験者へのインタビューを通じて、両地域の文化交流の成果と藍の復興の重要性を広く伝えることを目的としている。

背景として、ヨルダンにはもともと藍を使った染色を行っていた歴史があったが、歴史的な背景によりその技術は途絶えた。かつて藍復興のプロジェクトが行われるも成果を上げることができなかった過去がある。しかし、今回の上板町との交流を通じて、再び藍の文化を復活させようという動きが生まれており、この映像はその新たな試みと両地域の文化的結びつきを記録し、未来に向けて発信するための重要な手段となる。

大阪・関西万博ヨルダン館や大阪・関西万博シグネチャーパビリオン『いのちの遊び場クラゲ館』、万博会場ナショナルデーでの上映の可能性がある。ヨルダンや上板町の方はもちろん、伝統技術を通じた文化交流に興味がある人、万博ヨルダン館に来場してくださった方に、映像を通じて、藍文化の復興と異文化交流の重要性を感じてもらい、両地域の伝統技術と文化交流がさらに発展するきっかけとなることを期待している。特に、今後の地域間の交流活動に対してより多くの支援と関心を引き起こし、継続的な発展へと繋がることを目指している。

●映像作成メンバー

村田道弘（プロデューサー：合同会社 studioSARD）小松洋平（カメラマン(株)ポルデ）
四国大学（補助作業・サポート）

●映像の進捗について

12月企画

1月企画・講習会（四国大学）・素材集め・撮影（イベントなど）

2月講習会・ヨルダン撮影・ヨルダンへの素材依頼・編集

●今後の予定

来年度作成した映像をヨルダン館にて上映するための準備を行っている。さらに、イベントではプロ

ジェクションマッピングを行う予定のため、来年度は完成した映像をマッピングする。



7) 衣装染色依頼

万博のヨルダン館及びクラゲ館にて使用する衣装の染色を、四国大学藍の館及び Watanabe`s に依頼。今回の作業はテスト形式（試作）で実施し、技術的な検証や仕上がりの確認を行った。今後は四国大学内の藍の館と連携し、染色技術の制度を高めながら、万博会場で実際に使用できる衣装の作成を進めていく。



(3) 実施に至った経緯

本プロジェクトは、上板町とヨルダンの関係者の協議を経て、両国の子どもたちの教育と文化交流を促進するために企画された。

前徳島県副知事の勝野美江氏から、リーナ・アンナーブ駐日ヨルダン大使（当時）とのご関係（国際交流関連イベントで藍染めについて深い興味を持たれている）を紹介いただき、ヨルダン側のニーズと上板町や高志小学校の取り組みとが合致するとの事から、本事業への応募が動き出した。特に、ヨルダン館の関係者との連携が進み、万博を見据えた長期的な協力関係の構築が進められた。

(4) 実施スケジュール

令和7年11月15日 高志小学校とヨルダン万博関係者とのオンライン交流

令和7年1月10日 高志小学校とヨルダンの子どもたちとのオンライン交流

令和7年1月26日 ヨルダン×上板町成果発表イベント

令和7年2月13～20日 ヨルダン現地渡航（5名）

令和 7 年 2 月 17 日 高志小学校とヨルダンの子どもたちとの藍染めオンライン交流
令和 7 年 9 月～2 月 26 日まで 毎週水曜日にオンラインによるオンライン MTG を実施

(5) 実施体制

【実施主体（申請主体）】

上板町（教育委員会）

【プロジェクト実施団体】

高志小学校、四国大学、株式会社 Watanabe's 他

【プロジェクト運営事務局】

NPO 法人 TOKUSHIMA 雪花菜工房

【協力】

株式会社 steAm、ヨルダン万博関連組織、ヨルダン教育省、ヨルダン大使館、
農林水産省他

(6) プロジェクトの目標に対する成果

- 国際理解教育の促進：子どもたちが異文化を直接体験する機会を得た。
- 文化継承と発信：藍染めを通じた交流により、日本の伝統技術を海外に紹介。
- 地域活性化：イベントや交流活動を通じて地域の関心が高まり、継続的な国際交流の基盤が築かれた。
- 相互波及効果：上板町内の学校や地域団体のみならず、ヨルダン側でも日本文化に対する関心が高まった。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- 国際交流の継続性：上板町とヨルダン間で築かれた関係は、万博終了後も持続可能な国際交流の基盤として機能する可能性がある。
- 文化理解の深化：藍染めを通じた文化交流は、相互の伝統技術に対する理解を深め、新たな創造的活動の基盤を築いた。
- 万博との連携強化：イベントを通じて、ヨルダン館およびクラゲ館との協力関係が強化され、今後のプロジェクトの展開が期待される。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- プロジェクトを実施したことで得た知見や繋がりなど
- 文化交流を通じた子どもたちの積極的な関与
- 万博を見据えた多様な関係者の連携強化
- ヨルダン現地訪問を通じたリアルな異文化体験

- 参加者同士の交流が生まれ、文化の違いを超えて楽しい雰囲気でもオンライン交流や現地での交流が進行していた
- 言葉や文化の壁を超えて、コミュニケーションが活発に行われ、双方にとって学びの多い機会となった
- 次世代を担う両国の生徒がお互いの文化や言語・国に興味を持てた
- 実際に渡航することにより中東ヨルダンならではの歴史・文化に直接触れることができ、学習意欲が一層高まった
- ヨルダンだけでなく徳島県民として藍染や上板町の魅力についても改めて認識できた
- 現地万博関係者との交流を通じて、万博に向けた良好な関係を気づくことができた

2) 苦労した点

- プロジェクトを実施する中で苦労した点について
- 言語や文化の違いによるコミュニケーションの課題
- オンライン交流における技術的な問題
- 参加者のスケジュール調整
- 文化や習慣の違いによって、当たり前だと思っていたことが相手には伝わりにくいこともあると感じた
- 交流の場をスムーズに進めるために、事前準備やプログラムの工夫を行ったが、時差やインターネット環境の違いで苦労した
- 言葉の壁があり、細かいニュアンスを伝えるのが難しく、ジェスチャーや英語で対応するのが苦労した
- 言語の壁を始め、歴史・文化的背景を深く掘り下げるためにはさらなる学習が必要であると感じた
- 四国大学側（学生）が藍染めなどの知識不足であると痛感した→日本の伝統を伝える自覚を持つ＝実際に体験する

(9) 今後の課題

- 継続的な交流のための資金・支援体制の確立
- さらなる交流対象の拡大（他の学校や地域団体との連携）
- 文化交流のプログラムの充実

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- 万博会場での子どもたちによる発表イベントの開催
- 万博会場にて PTI の女性や現地の小学生が染めた藍染のストールやコースター等を展示予定
- （予定日：2025年5月7日ヨルダンナショナル day）
- ヨルダン館にて羊毛製品等使用に向けての準備など
- ヨルダン館やクラゲ館とのさらなる連携

(万博閉会后)

- 継続的なオンライン交流の実施
- 双方向の文化交流プログラムの充実
- ヨルダン側の学校や地域と連携した新たなプロジェクトの企画

(11) 持続的に展開するための工夫

- 定期的な協議会の設置
- 地域の教育機関との連携強化
- 企業や団体とのパートナーシップを通じた支援体制の強化

本プロジェクトの成果をもとに、万博を契機としたさらなる交流の発展を目指し、継続的な取り組みを推進していく。

E.福岡県福岡市

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

欧米豪旅行客や高付加価値旅行者などをターゲットに、西日本・九州への広域的な誘客を図っていくために開始した西のゴールデンルート。万博等の国内大型イベントを契機として、インバウンド客の訪問が期待できることから、中東のサウジアラビア、UAE、カタールとの交流を開始する。

2) プロジェクトの目的

中東地域における西のゴールデンルートの認知度・魅力度向上を図る。また、西のゴールデンルートアライアンスメンバーの中東の文化・習慣に関する知識の向上及び受け入れ体制の整備を図ることを目的に実施する。

(2) 事業内容

1) ハラル勉強会

【日 程】令和7年1月9日

【場 所】オンライン

【参加者】西のゴールデンルート関連自治体の自治体職員、旅行代理店関係者、宿泊業関係者、飲食業関係者など合計75名

イスラム圏の文化の紹介から始まり、イスラム圏から見た日本の印象や、イスラム圏の方を受け入れる際のポイントなど、幅広い内容について2時間講義を行った。

2) FAMトリップ

【日 程】令和7年1月26日～1月31日

【場 所】西のゴールデンルート参加自治体（兵庫県姫路市、岡山県岡山市、岡山県倉敷市、山口県下関市、福岡県北九州市、福岡県福岡市）

【参加者】サウジアラビア、アラブ首長国連邦、カタールの旅行代理店関係者各2名の合計6名
各自治体において、文化体験等や現地の高校生との交流を行った。以下、各自治体の交流内容を記載する。

- ・ 姫路市
圓教寺訪問（住職による案内）、姫路城訪問（学芸さんによる説明）、備前長船刀剣博物館（刀体験）
- ・ 倉敷市
美観地区訪問（川舟体験）
- ・ 岡山市
岡山学芸館高校訪問（校内案内、和太鼓体験、サッカー部見学）、岡山後楽園・岡山城訪問

- ・ 小倉市
漫画ミュージアム、TOTO ミュージアム、門司港レトロ訪問、関門海峡クルーズ体験
- ・ 下関市
唐戸市場訪問（寿司づくり体験）
- ・ 福岡市
中村人形工房、博多旧市街エリア訪問、イチゴファームこうじ園訪問（イチゴ狩り体験）



【姫路城（夜間貸切利用）】



【学校交流（岡山学芸館高等学校）】



【寿司づくり体験（下関唐戸市場）】



【門司港レトロ見学】

3) サウジアラビア大使招聘

【日 程】令和7年2月17日～2月18日

【場 所】西のゴールデンルート参加自治体（岡山県岡山市、福岡県北九州市、福岡県福岡市）

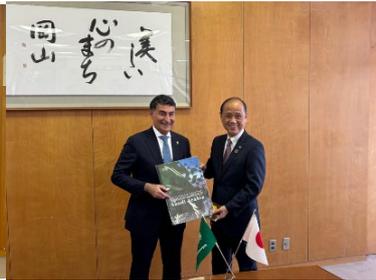
【参加者】サウジアラビア大使

各自治体において、表敬訪問や名所や学校の訪問を行った。以下、各自治体の交流内容を記載する。

- ・ 岡山市
岡山県知事表敬訪問と対談、岡山市長表敬訪問と対談、後楽館高校でのサウジアラビアに関する講義、後楽園、岡山オリエント美術館、岡山城訪問
- ・ 北九州市
北九州市長表敬訪問と対談、TOTO ミュージアム訪問
- ・ 福岡市
福岡副市長表敬訪問と対談、中村人形店訪問



【岡山県知事訪問】



【岡山市長訪問】



【岡山市学校訪問】



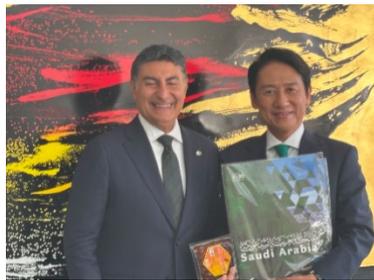
【岡山後楽園訪問】



【岡山オリエント美術館訪問】



【岡山のホテルの歓迎】



【北九州市長訪問】



【TOTOミュージアム訪問】



【福岡市副市長訪問】



【中村人形店訪問】

(3) 実施に至った経緯

- ・事業者向け文化理解としてハラルの勉強会の実施。
- ・中東3ヶ国の旅行会社を対象にFAMツアーを実施。
- ・学校訪問による子どもたちとの交流。
- ・駐日サウジアラビア大使による表敬訪問及び学校訪問。

(4) 実施スケジュール

令和7年1月9日ハラル勉強会

令和7年1月26日～1月31日FAMトリップ

令和7年2月17日～2月18日サウジアラビア大使招聘

(5) 実施体制

本事業は、西のゴールデンルートアライアンスの幹事自治体の中から姫路市、岡山県、岡山市、下関市、北九州市、福岡市の6つの自治体で実施。中東の文化や習慣を学ぶハラル勉強会や、FAM ツアーの計画・実施、招聘した中東旅行会社の方々との意見交換会などを通じて、受入れ体制の整備を図った。

(6) プロジェクトの目標に対する成果

- ハラル勉強会の実施による西のゴールデンルートアライアンスメンバーの中東の文化・習慣の知識向上。
- FAM ツアーによる、中東旅行会社への西のゴールデンルートの認知拡大・魅力発信。
- 駐日サウジアラビア大使の表敬訪問での意見交換。また、万博を一緒に盛り上げていく意義についても議論。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

中東旅行会社による FAM ツアーや、駐日サウジアラビア大使の表敬訪問での意見交換は貴重な経験となった。サウジアラビアは万博の次期開催国であり、大阪・関西万博にはサウジアラビアを含め、多くの中東の方が来場されることが予想される。一人でも多くの中東の方々に西のゴールデンルートを訪れていただくために、万博開催期間中の半年間も引き続き交流を深めることが、西のゴールデンルートの更なる認知度向上となり、レガシーとなる。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- 本プログラムに参加した姫路市、岡山県、岡山市、下関市、北九州市、福岡市やアライアンスメンバーの中東の文化・習慣に関する知見を蓄積していくことができ、受け入れ体制の整備につながった。
- 駐日サウジアラビア大使の表敬訪問を通じて、サウジアラビアと関係性を築けたこと。

2) 苦労した点

- 西のゴールデンルートのみならず、西日本・九州の知名度が低いこと。
- 日本国内における中東の文化・習慣との関わりが少なく、取組みに消極的であること。

(9) 今後の課題

- 本プログラムにおいて、より多くの西のゴールデンルート幹事自治体の参加を期待する。
- 万博期間中での積極的な国際交流。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- サウジアラビア、UAE、カタールのパビリオン関係者やナショナルデー参加者など、一人でも多くの方々に西のゴールデンルートへ足を運んでもらえるように仕掛け、国際交流を通じてお互いの文化等を理解し学ぶ機会をつくる。
- 各国のナショナルデーには積極的に参加し、交流を深める。

(万博閉会后)

- 中東富裕層の間では、旅行先として西のゴールデンルートの認知度は低いですが、万博閉会后にはコンスタントに訪れていただけるよう環境整備を目指すとともに、中東での西のゴールデンルートを周遊するような旅行商品が造成されること期待する。

(11) 持続的に展開するための工夫

中東富裕層の受け入れ体制を整備し、PRを行うことで西日本・九州の広域的な周遊を目指す。

3. 各調査対象プロジェクトのアンケート結果

各調査対象自治体の取組に参加した地域住民等に対して、アンケート調査を実施した。アンケート結果より見えてきた自治体への波及効果を記載する。

アンケート結果概要

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見えた波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
青森県三戸町	・ヨルダン JICA 海外協力隊へのヒアリング	・現地学校視察において、学校の先生方と協力し合うことで国際交流が実施できた。その大人の姿を子供たちは見ている。そういった姿を見えることが国際協力において重要な教育であるといった感想を頂いた。三戸町がこれから築っていくヨルダンとの交流の方向性を考える際の参考となった。	・ヨルダンとの国際交流はスタートしたばかりだが、今年度は JICA やヨルダン大使館との連携を深めることができた。今後、事業への協力が見込めることから、次年度は地元住民も巻き込んだ取組になることが期待される。
東京都渋谷区	・トルコ渋谷クロッシング事後アンケート	・トルコ料理教室やトルコ語講座は満足度が高く、参加者全員が、トルコに対する興味関心が高まったと回答。一方で音楽イベントの方は、歌詞や通訳がわかりづらいと言った声があり、参加者が満足できるイベントの構成について考える機会となった。	・渋谷区は大使館がいくつかあり、様々な国の人が住んでいるが、普段は交流がないので、お互いを理解し合える交流がもっとできるとよいといった意見があり、今後、国際交流イベントの開催が増えていくことが期待される。
和歌山県有田市	・ドバイ GEMS アル・バルシャ・ナショナルス	・ドバイを訪問する前後の国際的視野の	・今後もドバイの学生との交流を求める声が

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見え た波及効果	万博への期待や今後の 国際交流へ要望等
	クールとの教育交流に伴う事前学習についてのアンケート	変化について問では、大きく変わったという回答が90%あった。海外に興味湧いてきた、英語が話せるようになりたいといった意識の変化が多く、海外への視野が大きく広がったことが示唆される。	85%あり、万博に向けて継続した交流が求められる。
徳島県上板町	・ 成果発表会事後アンケート	・ イベントを通して、ヨルダン国への興味関心が高まったと94.3%が回答。生活圏に組み込んだイベントだったので、国際交流へのハードルが下がって気軽に交流できることを体験できた等。地域住民にとって、国際交流の良さに気づくことが出来る機会となった。	・ 継続的な交流にしていきたい、小学生で海外と交流が持てる機会は素晴らしいといった意見があり、地域の方や保護者の理解を得ることに繋がるイベントになった。万博会場での交流に弾みがついたと示唆される。
福岡県福岡市	・ ハラル勉強会参加者アンケート ・ FAM ツアー参加者向けアンケート（自治体向け・参加事業者向け）	・ FAM ツアーでは、中東の方に西のゴールデンルートを知ってもらうきっかけになることを期待し実施した。予想以上に多くの意見を得られた、中東の向けの旅行コンテンツのヒントを多く得られたといった意見があり、中東からの旅行者受け	・ 万博を契機に中東からのインバンドを増やす取り組みについては、63.5%が良い取組であると回答。中東地域との関わりについては、全員が今後も持ちたいと回答。中東からの旅行者受け入れについて、少しずつ理解と協力体制

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見えた波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
		入れ態勢の構築に弾みが見つかる事業となった。	が整いつつあることが伺える。